

「格差社会どうする」

報告書

(2006年11月13日～11月27日調査)

I	調査の設計	1
II	結果の概要	5
III	単純集計	14
IV	調査票	17



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆ 調査の目的

景気低迷と小泉内閣の構造改革をくぐり抜けた日本社会は「格差」の厳しい現実直面している。護送船団方式、ヨコ並び、総中流社会に象徴される戦後社会とは異質の新たな段階に突き進んだとされる。

格差の問題は、国民各層の受けとめが一樣ではなく、今後の社会のあり方に亀裂を生じている中で、事態が先鋭化して現われている「若者雇用」「次世代教育」「構造改革」の3つの局面から考える。

◆ 調査の設計

- ▽調査対象 長野県世論調査協会の登録モニター
県下の成人500人（男性253人 女性247人）
＝全県有権者の縮図になるように構成
- ▽調査方法 調査票を郵送 回収は郵送・電話・ファクス・インターネット
- ▽調査期間 2006年11月13日～11月27日

◆ 回収結果

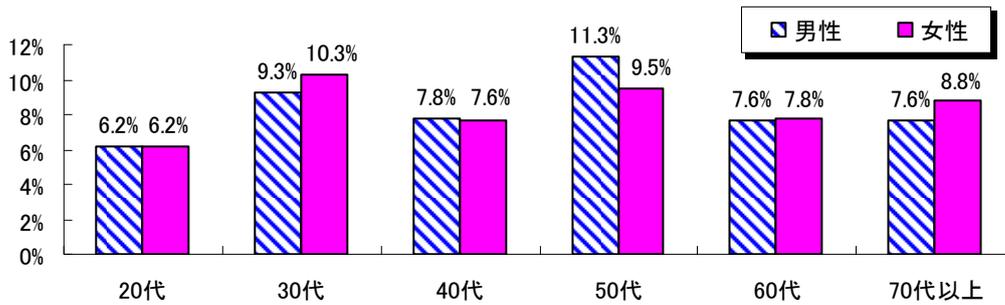
- ▽有効回収数 486人（男性242人 女性244人）
- 回収率 97.2%

<注>報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

回収サンプルの内訳

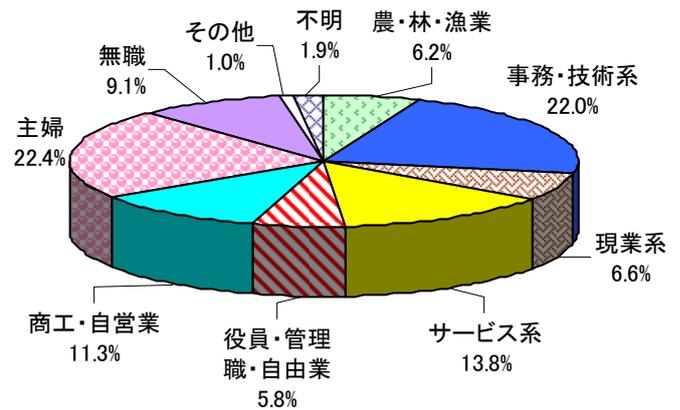
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体	486	60	95	75	101	75	80
	100.0%	12.3%	19.5%	15.4%	20.8%	15.4%	16.5%
男性	242	30	45	38	55	37	37
	49.8%	6.2%	9.3%	7.8%	11.3%	7.6%	7.6%
女性	244	30	50	37	46	38	43
	50.2%	6.2%	10.3%	7.6%	9.5%	7.8%	8.8%



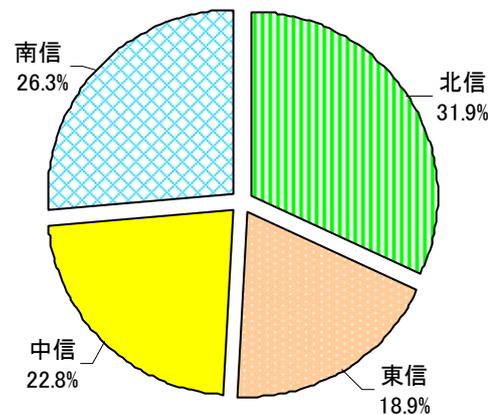
【職業】

農・林・漁業	30	6.2%
事務・技術系	107	22.0%
現業系	32	6.6%
サービス系	67	13.8%
役員・管理職・自由業	28	5.8%
商工・自営業	55	11.3%
主婦	109	22.4%
無職	44	9.1%
その他	5	1.0%
不明	9	1.9%



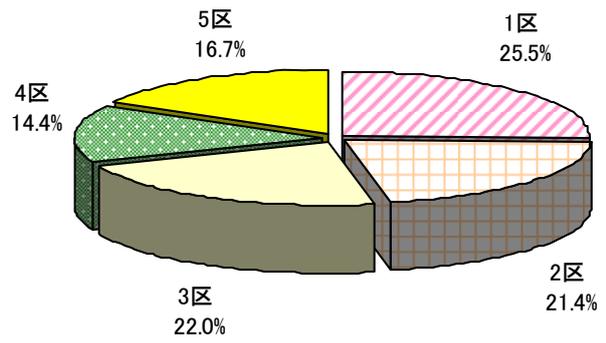
【地域】

北信	155	31.9%
東信	92	18.9%
中信	111	22.8%
南信	128	26.3%



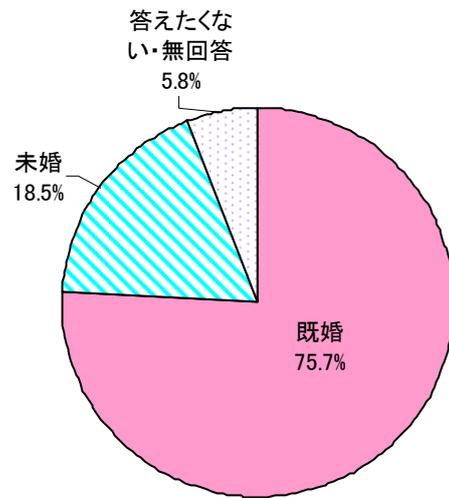
【選挙区】

1区	124	25.5%
2区	104	21.4%
3区	107	22.0%
4区	70	14.4%
5区	81	16.7%



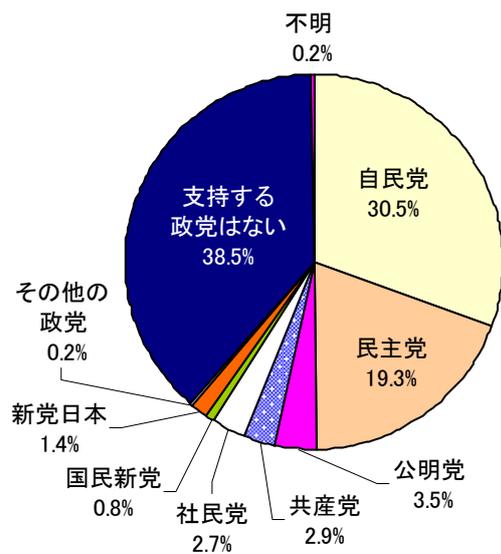
【結婚】

既婚	368	75.7%
未婚	90	18.5%
答えたくない・無回答	28	5.8%



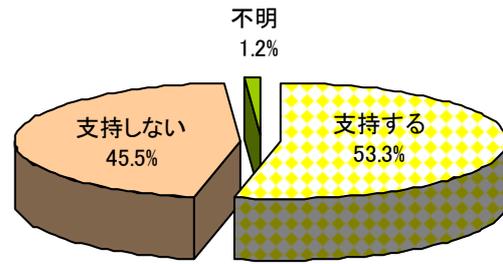
【支持政党】

自民党	148	30.5%
民主党	94	19.3%
公明党	17	3.5%
共産党	14	2.9%
社民党	13	2.7%
国民新党	4	0.8%
新党日本	7	1.4%
その他の政党	1	0.2%
支持する政党はない	187	38.5%
不明	1	0.2%



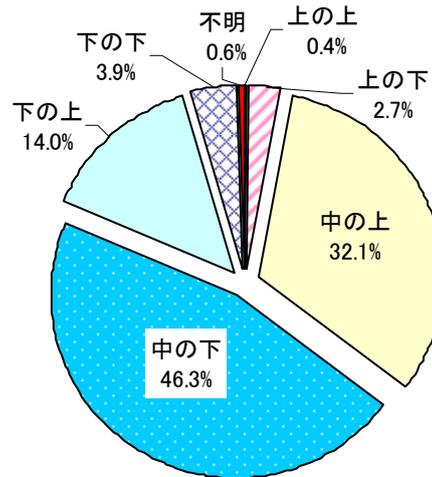
【安倍内閣支持】

支持する	259	53.3%
支持しない	221	45.5%
不明	6	1.2%

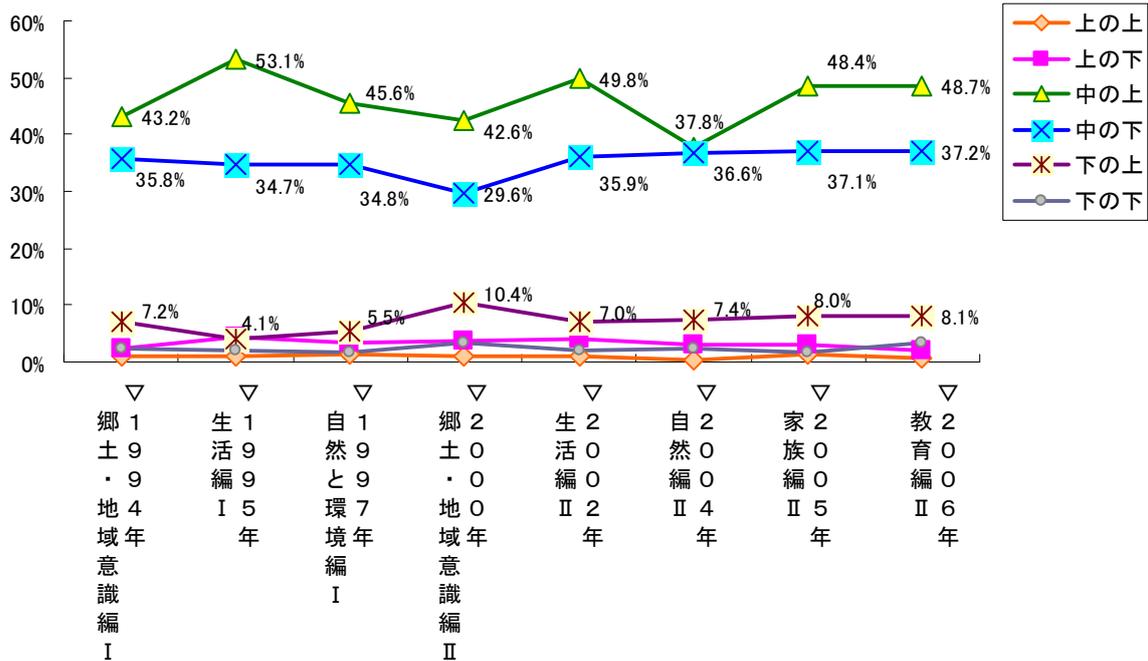


【暮らし向き】

上の上	2	0.4%
上の下	13	2.7%
中の上	156	32.1%
中の下	225	46.3%
下の上	68	14.0%
下の下	19	3.9%
不明	3	0.6%



◆暮らし向きの推移(長野県世論調査協会「われら信州人」調査より)

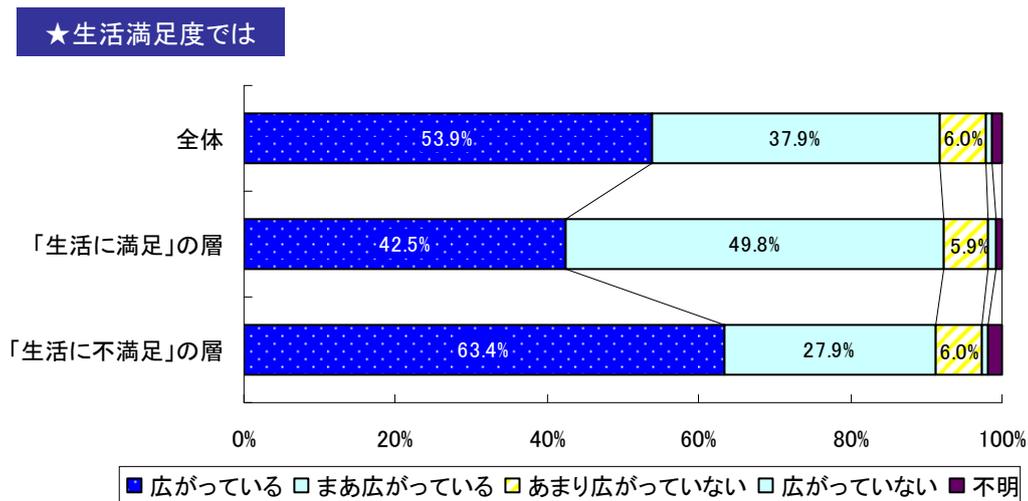


II 結果の概要

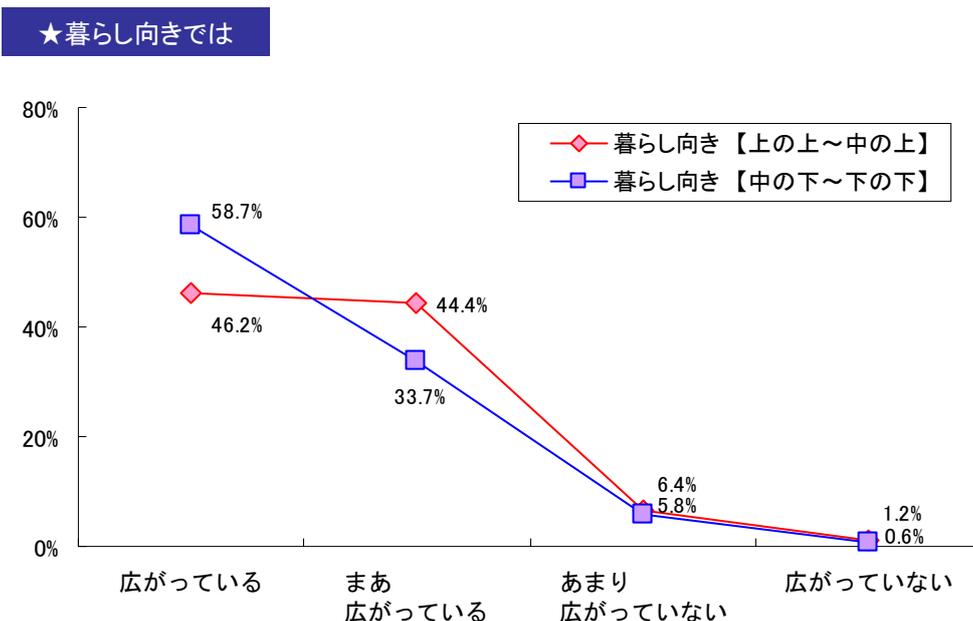
A 格差の受けとめ

所得の格差の実情 「広がっている」総体で90%突破

今の社会の中で、所得面の格差が「広がっている」との受けとめが半数を超え「まあ広がっている」を加えると90%台に達する。男女に共通する高率で、年代層でも大きな開きは出ていない。



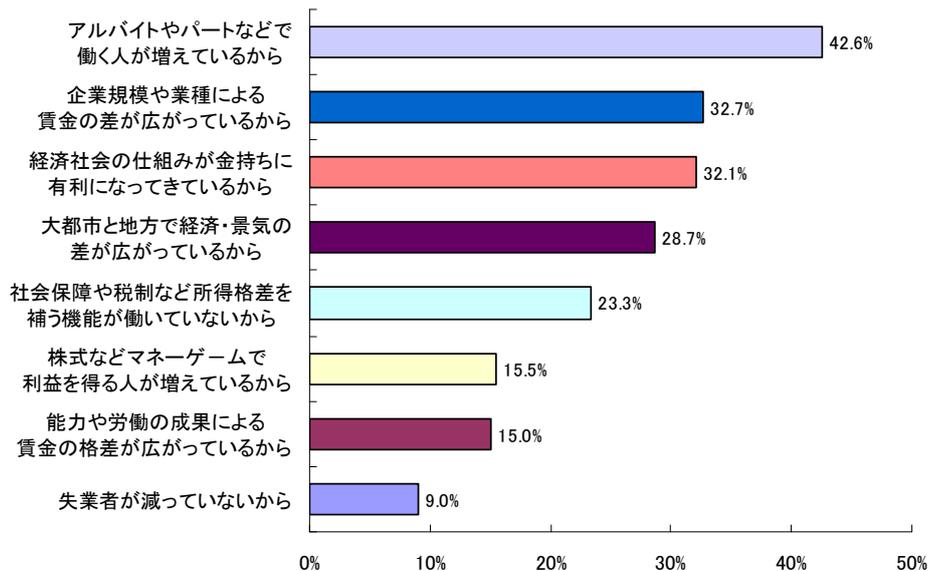
今の生活に全体として満足層は「広がっている」だけで40%余だが、不満層では60%台に跳ね上がる。暮らし向きが比較的「下の部類」（中の下～下の下）とする層でも60%に迫る。その半面「拡大」総体では、暮らし向きが「上の部類」（上の上～中の上）もほとんど変わらない高水順になっている。



所得の格差拡大の原因

◆「バイト、パートで働く人が増えた」トップ

所得格差が広がっているという回答者に聞いた結果は「アルバイトやパートなどで働く人が増えたから」が他を引き離してトップに挙げられ、若年層労働の厳しい受けとめが示された。続いて「企業規模や業種により賃金の差が広がっているから」と「経済社会の仕組みが金持ちに有利になってきているから」が並ぶ。



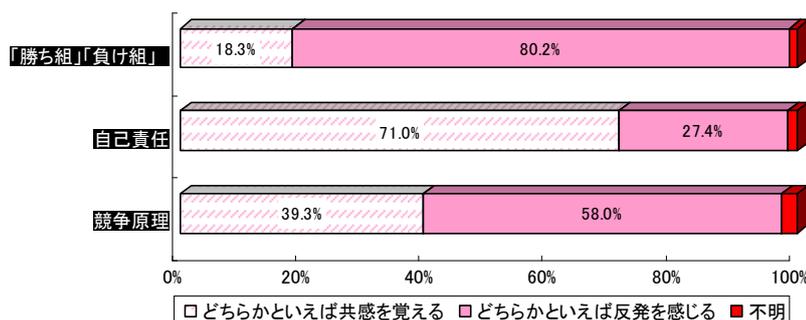
この傾向は、今年3月の共同通信の全国調査（面接・3000人）と同じ。「大都市圏と地方で景気の差が広がっているから」が4位にランクされたことでも共通する。

暮らし向きでみると「下の部類」の層で「経済社会の仕組みの差」が2位に挙げられ「企業の格差」とともに、体制的な要因への反発が強めに現われている。

「勝ち組」や「自己責任」という言葉の受けとめ

◆共感する「自己責任」70%超 「勝ち組・負け組み」18%

最近の社会の動きを表すことばを3つ挙げて、格差との関連で共感・反発の度合いを聞いた。総体で「どちらかといえば共感を覚える」が高い順から「自己責任」71%、「競争原理」39%、「勝ち組・負け組」18%。

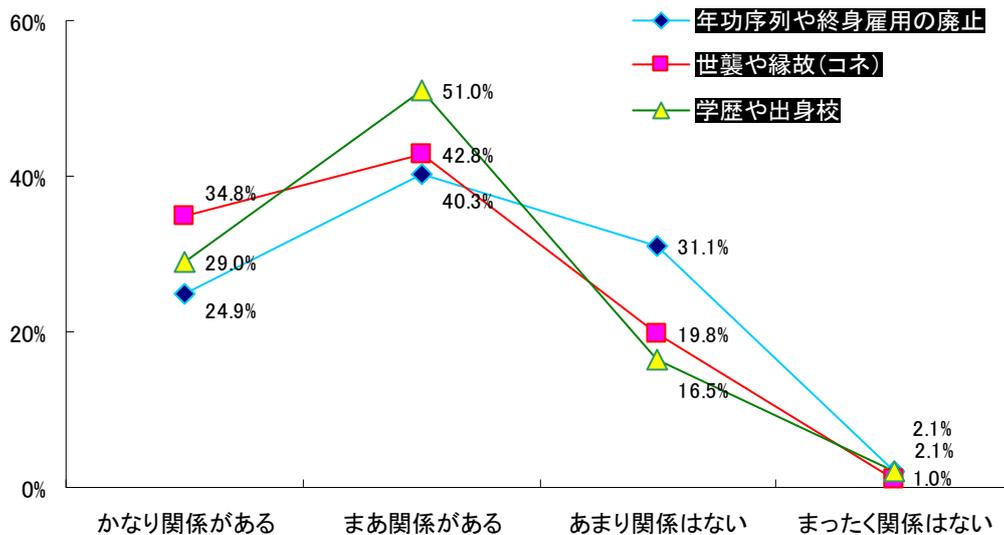


- ★ **勝ち組・負け組**＝「共感」が18%、「どちらかといえば反発を感じる」が80%と、好悪に大きな隔たりが生じた。男女に開きはみられないが、若い年代層ほど共感が高まり、20代では3人に1人を数える。
- ★ **自己責任**＝「共感する」が70%台にのぼり「反発」は30%を割り込む。男性の共感度がやや高めで、20、70代を除く年代層でも同様に、60代では76%の最高を示す。
- ★ **競争原理**＝「共感」が39%、「反発」58%と、ほかの2項目に比べてやや接近。男性で共感が45%に伸びる半面、女性では34%に低下する。若い年代層で「共感」が高まり、20代では半数を突破する。職業層では現業系勤め人で60%に迫り、管理職層でも半数に届く。

学歴や世襲、終身雇用と格差の関連は…

◆関連ある「学歴・出身校」と「世襲・縁故」80%前後

日本社会の伝統的な土壌、慣習を3つ挙げて、格差との関係の度合いを聞いた。「関係がある」総体で高い順から「学歴・出身校」80%、「世襲・縁故」78%、「年功序列・終身雇用」65%。

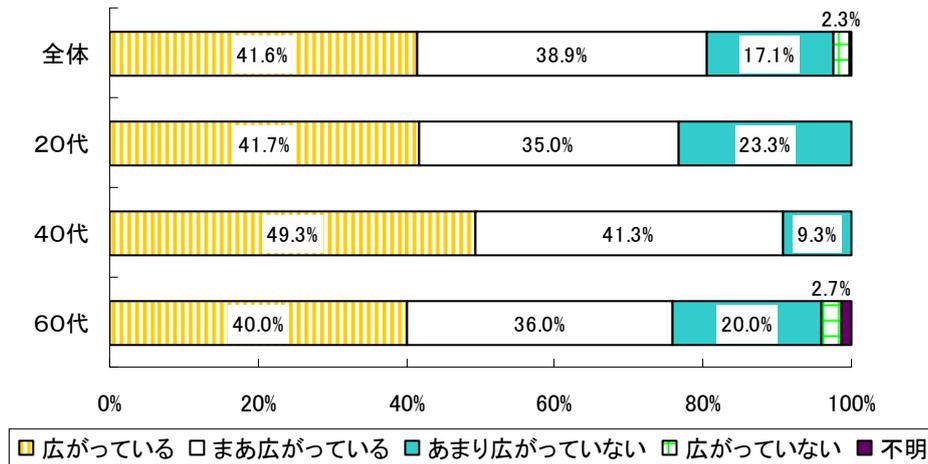


- ★ **学歴や出身校**＝「かなり関係がある」が30%近くあり「まあ関係がある」を加えると80%に達する。女性の受けとめがやや高めで、年代層では60代87%－50代71%のコントラストが際立つ。
- ★ **世襲や縁故(コネ)**＝「かなりある」が35%、「まあある」は43%。総体では80%に近くなり「学歴・出身校」並みの高水準になる。「かなりある」が50代で最も高く、職業層では管理職層で46%に伸び、総体では80%を突破する。
- ★ **年功序列や終身雇用の廃止**＝「かなりある」が25%、「まあある」が40%。サービス系勤め人や管理職層で「かなりある」だけで30%台に伸びるが、事務・技術系、現業系勤め人で「関係がある」総体で低めになっている。

B 次世代と格差

教育の分野での格差 40代で「広がっている」90%突破

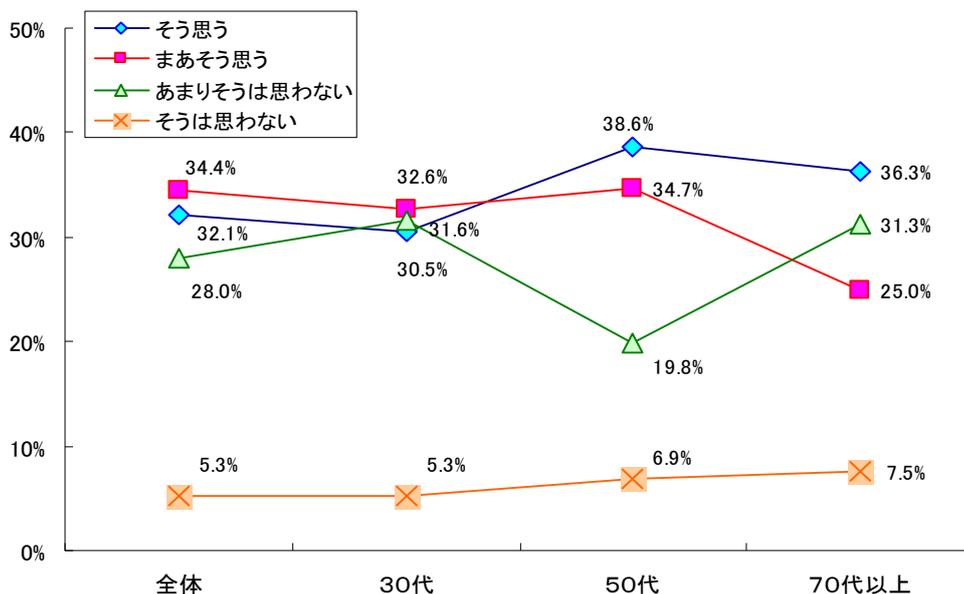
格差が「広がっている」が40%を超え「まあ広がっている」を加えると、総体で80%台に達する。男性の方が高めで、年代層では40代で最高の90%台となる。対照的に、若い年代層や60代では70%台にとどまる。



家庭や親の経済力により…

◆子の学力に影響「そう思う」40～50代で70%台

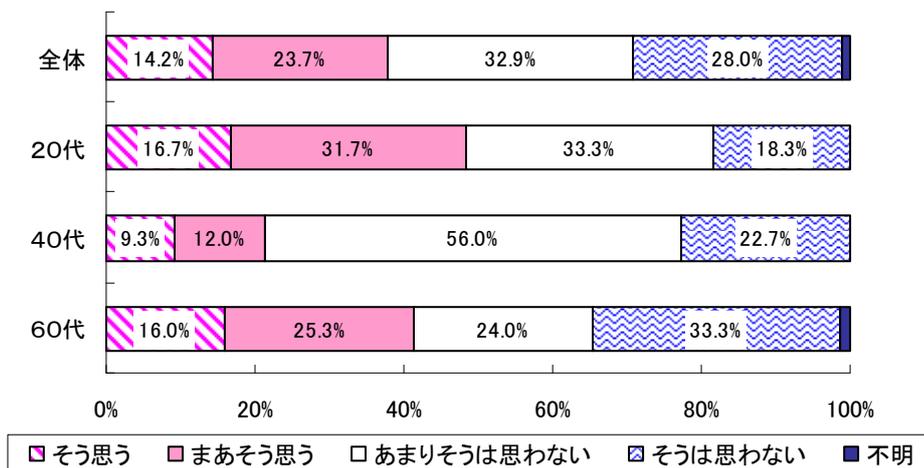
影響が出てきているに「そう思う」が総体で67%。男性の割合がやや高く、40～50代では70%台に高まり、年代層の受けとめにバラツキがみえる。暮らし向きが「中の上」「中の下」の中間層で「そうは思わない」がほかに比べて高めの傾向がみられる。



「若者のパートなど非正規労働は本人の生き方」という考えに

◆ 20代「そう思う」総体で半数近く

今の社会との関連で、若者の間でアルバイトやパートなどの非正規労働者が増えていることに「本人の生き方の問題だから仕方がない」という考え方に「そう思う」が38%、「そうは思わない」は60%を超えた。

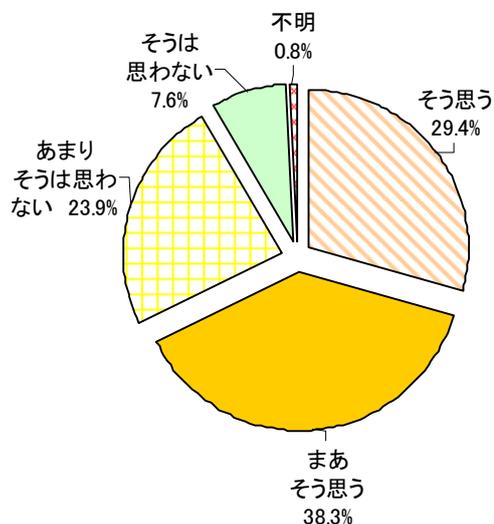


20代で容認が半数に迫り、60代以上でも高め。対照的に、40代では20%余にとどまり、30、50代でも平均値に並ぶ。男女の受けとめには、めだつた違いはみられない。

職業層では、無職層で「そう思う」が総体で半数を超えて最も高く、管理職層でも43%の高さを示す。その一方で、事務・技術系勤め人は28%と受けとめが厳しくなっている。

「再起するチャンスが得られにくい社会になっている」という考えに

◆ 「そう思う」70%近くの高率



勉強や仕事でつまずくと「再起するチャンスが得られにくい社会になっている」とする考え方には「そう思う」が総体で68%の高率で「そうは思わない」はその半分以下にとどまる。

年代層で大きな開きはみられない中で、50代で60%に届かず、20代でも平均値を下回る。職業層ではサービス系の勤め人を筆頭に、事務・技術系、農林業、主婦層で強めの「そう思う」が平均値を上回る一方で、管理職層で「そうは思わない」が総体で60%を超える。

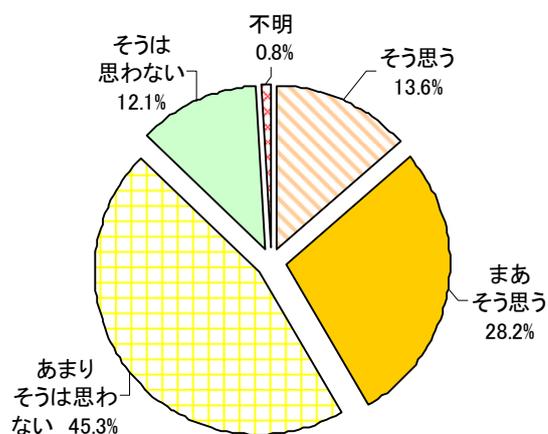
「競争で成果が報われる社会が望ましい」という考えに

◆「そう思う」40%台 70代で最高55%

もっと競争することによって「成果が報われる社会が望ましい」という考え方には「そう思う」が総体で42%。「そうは思わない」は57%。

年代層の受けとめにバラツキがあり、70代で肯定が55%の最高を示し、60、20代でも平均値を上回る。他方、30～50代の壮年層で軒並み平均値に届かない。

職業層でも管理職層で「そう思う」が半数を超え、主婦層、無職層が高めなのに対して、事務・技術系勤め人では30%余に落ち込んでいる。

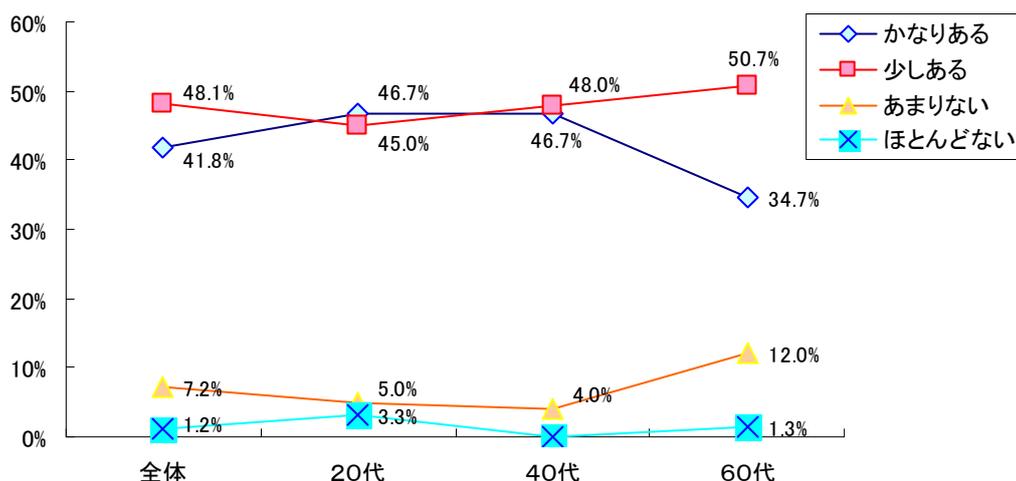


C 老後と格差

自分の将来への不安 20～50代「かなりある」40%台

不安が「かなりある」が42%、「少しある」は48%で、総体で約90%。女性の方が総体でやや上回り、年代層では50代までは軒並み90%台に並ぶ。

職業層では、サービス系勤め人で「かなりある」だけでも60%に達し、商工自営でも50%を超える。また、未婚者で半数を占めるが、既婚者はそれよりも10ポイントほど下回る。



暮らし向きが総じて「上の部類」の層で「かなりある」が4人に1人程度なのに対して「下の部類」の層では、2人に1人にのぼる。

◆**どんな将来不安が…**

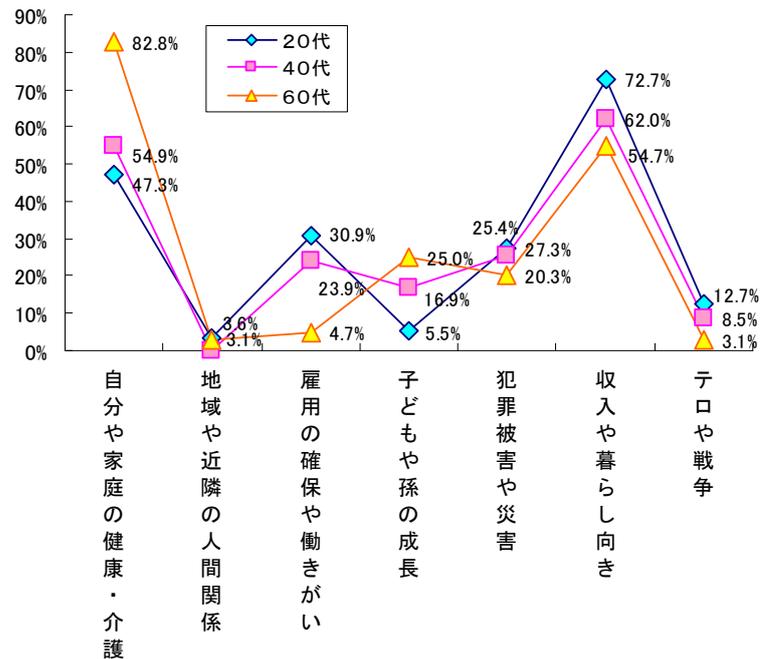
「健康」と「収入」上位に並ぶ

自分や家族の「健康・介護」と「収入・暮らし向き」が僅差で上位に並ぶ一方で、三番手には「犯罪被害や災害」がランクされ「雇用・働きがい」と「子ども・孫の成長」が続く。

「健康・介護」で男女の違いはみられないが「収入」「雇用」で男性が上回り、女性は「犯罪被害」や「テロ・戦争」で高めになっている。

「健康」は年代層が高まるほどに増え、60代以上では80%台の高率。対照的に「収入」では若い層で高まり、20代で70%台に到達し「雇用」でも高くなる。

暮らし向きでは「健康」では違いはほとんどないが、「収入」で「下の部類」の層が67%とトップに挙げられる。対照的に「上の部類」では「犯罪被害」「子ども・孫の成長」が高まる。

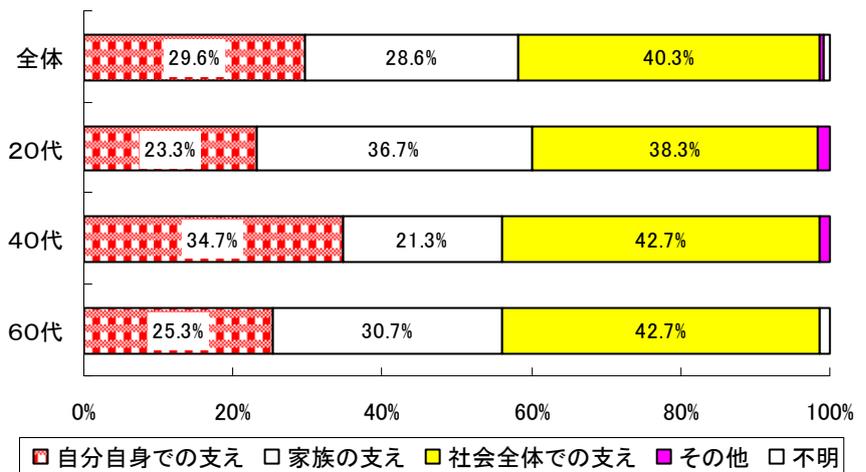


自分の高齢期の支えは…

◆ **「社会全体で」40% 「自分自身で」30%**

「社会全体の支え」と考える人が40%にのぼり「自分自身」と「家族の支え」が30%弱の僅差で並ぶ。

男女間に大きな違いはみられないが「家族の支え」で男性が5ポイント上回る。20代も高めで「社会全体」に続き2位にランクされている。



地域的には「社会全体」で中信47%—南信32%の落差が著しい。南信では「自分自身」がトップにランクされる。また、家族構成でみると、夫婦世帯が「社会全体」でトップの高率の一方で、単身世帯では「自分自身」が半数近くに突出する。

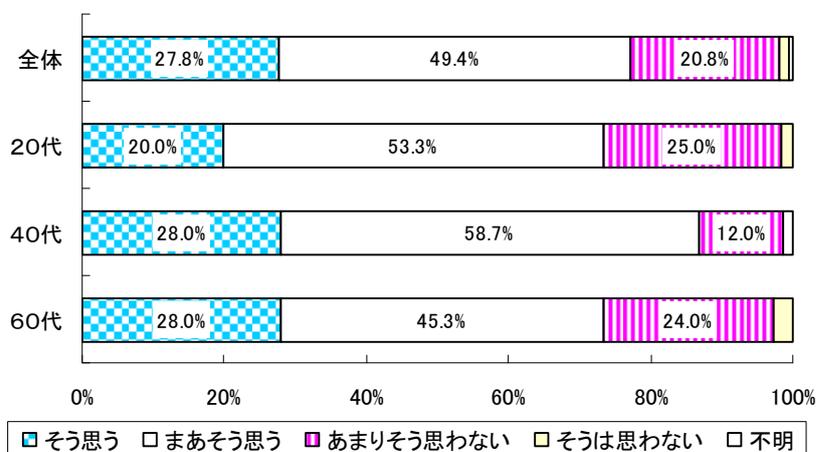
D 格差と政治

「格差が固定化している」という見方に「そう思う」77%

格差の固定化に「そう思う」が総体で77%、「そうは思わない」は20%余。

男女にめだつた違いはないが、50代で強い肯定が3人に1人を占め、「そう思う」総体では40代が87%で最も高い。

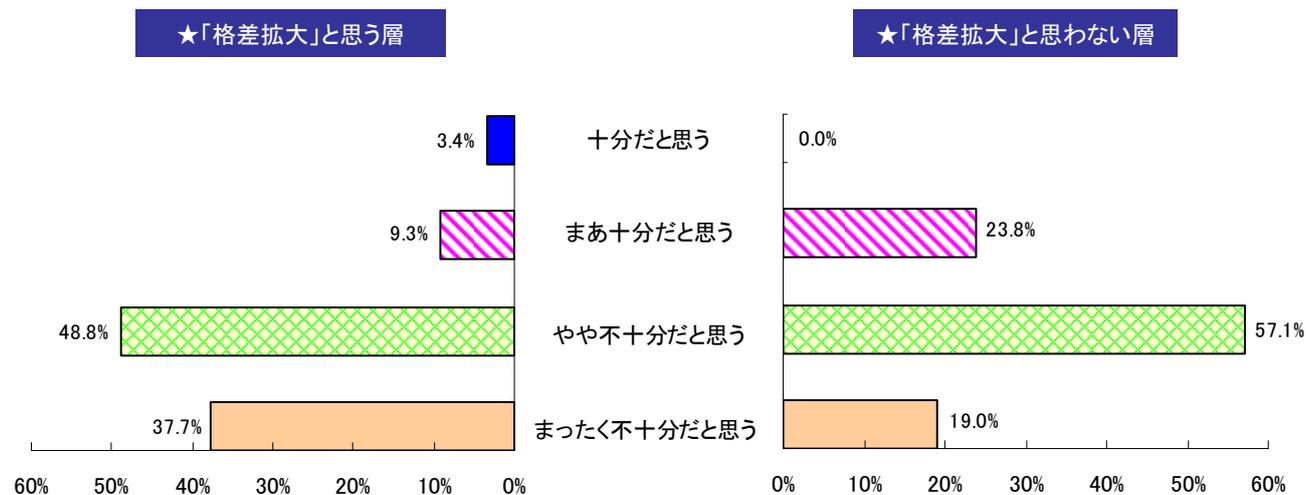
社会の格差が広がっているとみる層で、固定化に「そう思う」が80%、否定的な層では50%台といった隔たりが出ている。

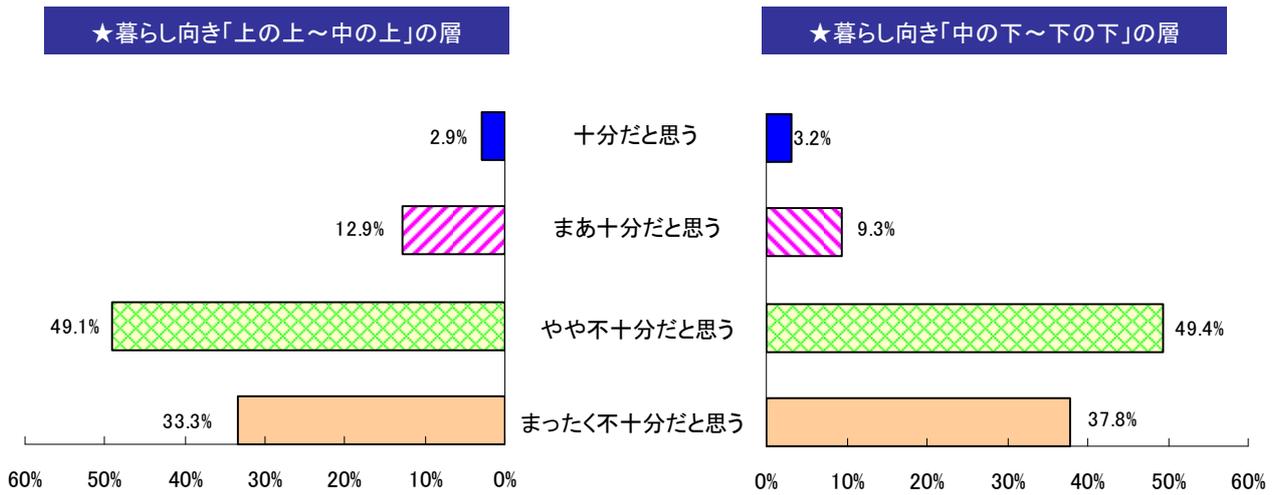


「構造改革に伴う痛み」に対する手だて

◆「不十分だと思う」全体で80%半ば

小泉内閣が改革には痛みが伴うという姿勢をとった中で、痛みに対する手だてが「十分だと思う」が総体で14%、「不十分だと思う」は86%の大きな開きが生じた。男女、年代層に違いはあまりみられないが、主婦層で肯定的な受けとめが20%近い高さを示す。





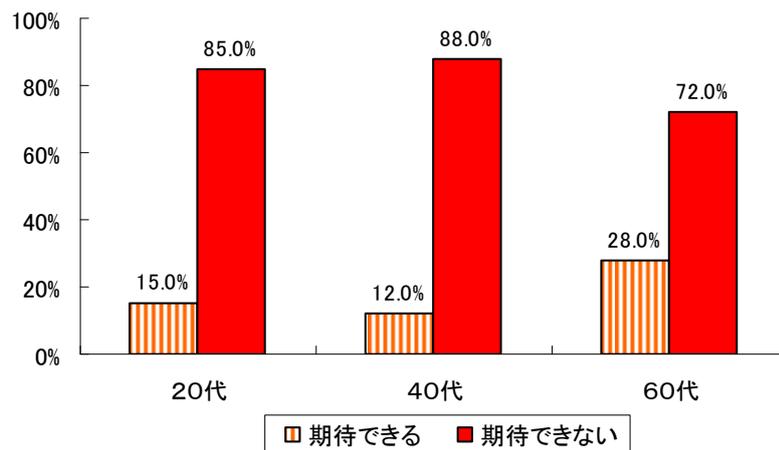
格差拡大と受けとめる層の87%が「不十分だ」とするのに対して、拡大と受けとめない層は10ポイント程度下回る。対照的に、暮らし向きでは「不十分」の受けとめの差はみられない。

◆格差の改善 安倍内閣に「期待できる」20%

発足間もない安倍内閣に「期待できる」が20%、「期待できない」は約80%。

30代と60代以上で期待感が高いが、40～50代、20代では10%台に低迷する。職業層では無職層、管理職層、農林業などで比較的高めだが30%には届かない。

暮らし向きが「上の部類」で「期待できる」が28%と高めだが「下の部類」では10ポイント余下回る。



安倍内閣の支持層は「期待できる」が38%にのぼるが「期待できない」が62%にのぼる。不支持層では「期待できない」がほとんどを占める。また、政党支持層では「期待できる」が自民党で41%。民主党は10%に届かず、無党派層でもようやく10%台に乗る。

Ⅲ 単純集計

問1 あなたは、全体として、今の生活にどの程度満足していますか

	全体	男性	女性
満足している	4.7%	2.1%	7.4%
まあ満足している	40.7%	36.8%	44.7%
やや不満だ	41.4%	45.5%	37.3%
不満だ	13.2%	15.7%	10.7%
不明	0.0%	0.0%	0.0%

問2 政府の報告では国内景気が拡大を続け、戦後最長の「いざなぎ景気」を超える見込みですが、あなた自身の景気の実感はどうですか

	全体	男性	女性
良くなっている	1.6%	1.7%	1.6%
どちらかといえば良くなっている	7.0%	7.9%	6.1%
変わらない	49.8%	43.4%	56.1%
どちらかといえば悪くなっている	31.1%	34.3%	27.9%
悪くなっている	10.3%	12.8%	7.8%
不明	0.2%	0.0%	0.4%

問3 あなたは、最近の社会の動きをあらわす次のA～Cのようなことばについて、どのように受けとめていますか

A 「勝ち組」「負け組」

	全体	男性	女性
どちらかといえば共感を覚える	18.3%	19.4%	17.2%
どちらかといえば反発を感じる	80.2%	79.8%	80.7%
不明	1.4%	0.8%	2.0%

B 自己責任

	全体	男性	女性
どちらかといえば共感を覚える	71.0%	73.1%	68.9%
どちらかといえば反発を感じる	27.4%	26.0%	28.7%
不明	1.6%	0.8%	2.5%

C 競争原理

	全体	男性	女性
どちらかといえば共感を覚える	39.3%	45.0%	33.6%
どちらかといえば反発を感じる	58.0%	52.9%	63.1%
不明	2.7%	2.1%	3.3%

問4 あなたは「社会の中の格差」は、現在どのような状態にあると思いますか

	全体	男性	女性
広がっている	50.6%	50.4%	50.8%
まあ広がっている	40.5%	40.9%	40.2%
あまり広がっていない	7.8%	7.9%	7.8%
広がっていない	0.8%	0.8%	0.8%
不明	0.2%	0.0%	0.4%

問5 あなたは「所得の格差」については、現在どのような状態にあると思いますか

	全体	男性	女性
広がっている	53.9%	54.1%	53.7%

まあ広がっている	37.9%	36.8%	38.9%
あまり広がっていない	6.0%	6.6%	5.3%
広がっていない	0.8%	0.8%	0.8%
不明	1.4%	1.7%	1.2%

問6 その主な理由は何ですか（2つ以内）

	全体	男性	女性
アルバイトやパートなどで働く人が増えているから	42.6%	44.5%	40.7%
企業規模や業種による賃金の差が広がっているから	32.7%	36.8%	28.8%
経済社会の仕組みが金持ちに有利になってきているから	32.1%	30.5%	33.6%
大都市と地方で経済・景気の差が広がっているから	28.7%	30.0%	27.4%
社会保障や税制など所得格差を補う機能が働いていないから	23.3%	22.7%	23.9%
株式などマネーゲームで利益を得る人が増えているから	15.5%	11.8%	19.0%
能力や労働の成果による賃金の格差が広がっているから	15.0%	15.5%	14.6%
失業者が減っていないから	9.0%	7.3%	10.6%
その他	0.2%	0.5%	0.0%
不明	0.0%	0.0%	0.0%

問7 あなたは、社会の格差について、次のA～Cであげることがらは、どの程度関係があると思いますか

A 学歴や出身校

	全体	男性	女性
かなり関係がある	29.0%	29.3%	28.7%
まあ関係がある	51.0%	47.5%	54.5%
あまり関係はない	16.5%	19.8%	13.1%
まったく関係はない	2.1%	2.5%	1.6%
不明	1.4%	0.8%	2.0%

B 世襲や縁故（コネ）

	全体	男性	女性
かなり関係がある	34.8%	33.5%	36.1%
まあ関係がある	42.8%	43.4%	42.2%
あまり関係はない	19.8%	21.5%	18.0%
まったく関係はない	1.0%	0.8%	1.2%
不明	1.6%	0.8%	2.5%

C 年功序列や終身雇用の廃止

	全体	男性	女性
かなり関係がある	24.9%	29.8%	20.1%
まあ関係がある	40.3%	39.7%	41.0%
あまり関係はない	31.1%	27.3%	34.8%
まったく関係はない	2.1%	2.1%	2.0%
不明	1.6%	1.2%	2.0%

問 8 あなたは、日本の社会の現実として、どのような人が「高い地位と多くの報酬」を得ることが望ましいと思いますか

	全体	男性	女性
努力をした人が得る	56.0%	59.5%	52.5%
実績をあげた人が得る	34.6%	29.3%	39.8%
だれでも同じくらいに得る	5.8%	8.7%	2.9%
年齢の高い人が得る	2.1%	2.1%	2.0%
その他	1.2%	0.4%	2.0%
不明	0.4%	0.0%	0.8%

問 9 あなたは、日本の社会と若者の雇用について、次の A～C のような考え方をどのように受けとめていますか

A 若者の間でアルバイトやパートなどの「非正規労働者」が増えているのは、本人の生き方の問題だから仕方がない

	全体	男性	女性
そう思う	14.2%	12.8%	15.6%
まあそう思う	23.7%	23.6%	23.8%
あまりそうは思わない	32.9%	33.5%	32.4%
そうは思わない	28.0%	30.2%	25.8%
不明	1.2%	0.0%	2.5%

B 勉強や仕事でつまずくと、再起するチャンスが得られにくい社会になっている

	全体	男性	女性
そう思う	29.4%	29.3%	29.5%
まあそう思う	38.3%	38.0%	38.5%
あまりそうは思わない	23.9%	24.4%	23.4%
そうは思わない	7.6%	8.3%	7.0%
不明	0.8%	0.0%	1.6%

C もっと競争することによって、成果が報われる社会が望ましい

	全体	男性	女性
そう思う	13.6%	14.9%	12.3%
まあそう思う	28.2%	27.3%	29.1%
あまりそうは思わない	45.3%	45.9%	44.7%
そうは思わない	12.1%	12.0%	12.3%
不明	0.8%	0.0%	1.6%

問 10 あなたは、今の日本で「教育の分野」で格差が広がっていると思いますか

	全体	男性	女性
広がっている	41.6%	43.8%	39.3%
まあ広がっている	38.9%	40.5%	37.3%
あまり広がっていない	17.1%	14.5%	19.7%
広がっていない	2.3%	1.2%	3.3%
不明	0.2%	0.0%	0.4%

問 11 あなたは、義務教育のあり方について、どちらの考えに近いですか

	全体	男性	女性
義務教育では、全体の学力向上を大事にするのが基本だ	81.3%	78.9%	83.6%
義務教育でも、能力別のクラス編成や指導がもっと必要だ	18.3%	20.7%	16.0%
不明	0.4%	0.4%	0.4%

問 12 あなたは、「子どもに対する金銭的な支え」は、親としてどの程度の年齢まで行うのがよいと思いますか

	全体	男性	女性
学業を終えるまで	66.3%	59.9%	72.5%
高校卒業まで	14.6%	18.2%	11.1%
20歳の成人まで	11.3%	12.0%	10.7%
結婚するまで	2.9%	4.5%	1.2%
可能な限り長く	2.9%	3.7%	2.0%
その他	1.6%	1.2%	2.0%
不明	0.4%	0.4%	0.4%

問 13 あなたは、家庭の経済力により子どもの学力に影響が出てきていると思いますか

	全体	男性	女性
そう思う	32.1%	32.2%	32.0%
まあそう思う	34.4%	37.6%	31.1%
あまりそうは思わない	28.0%	24.8%	31.1%
そうは思わない	5.3%	5.0%	5.7%
不明	0.2%	0.4%	0.0%

問 14 あなたは小泉内閣が進めた構造改革についてどう思いますか

	全体	男性	女性
かなり良かった	3.1%	4.5%	1.6%
まあ良かった	40.5%	39.3%	41.8%
あまり良くなかった	40.3%	38.0%	42.6%
まったく良くなかった	15.6%	17.8%	13.5%
不明	0.4%	0.4%	0.4%

問 15 小泉内閣は「改革には痛みが伴う」という立場でしたが、あなたは、格差の拡大による「痛みに対する手立て」について、どのように受けとめていますか

	全体	男性	女性
十分だと思う	3.1%	4.1%	2.0%
まあ十分だと思う	10.5%	9.1%	11.9%
やや不十分だと思う	49.6%	48.3%	50.8%
まったく不十分だと思う	36.0%	37.6%	34.4%
不明	0.8%	0.8%	0.8%

問 16 あなたは、次の A～C のことばの意味を知っていますか

A ニート

	全体	男性	女性
だいたい知っている	94.0%	93.0%	95.1%
知らない	5.3%	6.6%	4.1%
不明	0.6%	0.4%	0.8%

B セーフティーネット

	全体	男性	女性
だいたい知っている	49.0%	55.0%	43.0%
知らない	49.8%	43.8%	55.7%
不明	1.2%	1.2%	1.2%

C ジニ係数

	全体	男性	女性
だいたい知っている	9.3%	13.2%	5.3%
知らない	89.5%	86.0%	93.0%
不明	1.2%	0.8%	1.6%

問 17 「格差が固定化している」という見方が聞かれますが、あなた自身はどのように受けとめていますか

	全体	男性	女性
そう思う	27.8%	31.0%	24.6%
まあそう思う	49.4%	45.0%	53.7%
あまりそう思わない	20.8%	21.5%	20.1%
そうは思わない	1.4%	2.1%	0.8%
不明	0.6%	0.4%	0.8%

問 18 あなたは、安倍内閣の下で、格差問題の改善が期待できると思いますか

	全体	男性	女性
期待できる	20.4%	19.4%	21.3%
期待できない	79.4%	80.6%	78.3%
不明	0.2%	0.0%	0.4%

問 19 あなたは、自分の将来に不安がありますか

	全体	男性	女性
かなりある	41.8%	45.0%	38.5%
少しある	48.1%	43.4%	52.9%
あまりない	7.2%	7.9%	6.6%
ほとんどない	1.2%	1.7%	0.8%
不明	1.6%	2.1%	1.2%

問 20 あなたの将来の不安は、主にどんなことですか (2つ以内)

	全体	男性	女性
自分や家庭の健康・介護	62.2%	63.6%	61.0%
収入や暮らし向き	60.4%	64.0%	57.0%
犯罪被害や災害	25.4%	17.8%	32.7%
雇用の確保や働きがい	19.2%	24.8%	13.9%
子どもや孫の成長	17.6%	17.8%	17.5%
テロや戦争	7.3%	4.2%	10.3%
地域や近隣の人間関係	4.1%	3.7%	4.5%
その他	0.7%	0.9%	0.4%
不明	0.7%	0.5%	0.9%

問 21 あなたは、自分の「高齢期の暮らしの支え」について、主となるべきものは何だと思いますか (もっともあなたの考えに近いもの)

	全体	男性	女性
社会全体での支え	40.3%	39.7%	41.0%
自分自身での支え	29.6%	28.5%	30.7%
家族の支え	28.6%	31.0%	26.2%
その他	0.6%	0.0%	1.2%
不明	0.8%	0.8%	0.8%

問 22 世間の一般的な暮らし向きを6つに区分すると、あなたの家庭はどのあたりだと思いますか

	全体	男性	女性
上の上	0.4%	0.4%	0.4%
上の下	2.7%	2.1%	3.3%
中の上	32.1%	31.0%	33.2%
中の下	46.3%	42.1%	50.4%
下の上	14.0%	17.8%	10.2%
下の下	3.9%	5.8%	2.0%
不明	0.6%	0.8%	0.4%

問 23 あなたは、どの政党を支持しますか

	全体	男性	女性
自民党	30.5%	26.0%	34.8%
民主党	19.3%	26.4%	12.3%
公明党	3.5%	3.7%	3.3%
共産党	2.9%	2.1%	3.7%
社民党	2.7%	3.7%	1.6%
新党日本	1.4%	0.8%	2.0%
国民新党	0.8%	1.2%	0.4%
その他の政党	0.2%	0.4%	0.0%
支持する政党はない	38.5%	35.5%	41.4%
不明	0.2%	0.0%	0.4%

問 24 あなたは、安倍内閣を支持しますか

	全体	男性	女性
支持する	53.3%	48.3%	58.2%
支持しない	45.5%	50.8%	40.2%
不明	1.2%	0.8%	1.6%

問7 あなたは、社会の格差について、次のA～Cであげることがらは、どの程度関係があると思いますか。該当する番号に○をお付けください。

		関係 かなり ある	関係 まあ ある	関係 あまり はない	関係 まったく はない
A	学歴や出身学校	①	②	③	④
B	世襲や縁故（コネ）	①	②	③	④
C	年功序列や終身雇用の廃止	①	②	③	④

問8 あなたは、日本の社会の現実として、どのような人が「高い地位と多くの報酬」を得ることが望ましいと思いますか。

- ① 実績をあげた人が得る ④ だれでも同じくらいに得る
 ② 年齢の高い人が得る ⑤ その他（ ）
 ③ 努力をした人が得る

問9 あなたは、日本の社会と若者の雇用について、次のA～Cのような考え方をどのように受けとめていますか。該当する番号に○をお付けください。

		そう 思う	そう まあ 思う	思 わ な い あ ま り	思 わ な い そ う
A	若者の間でアルバイトやパートなどの「非正規労働者」が増えているのは、本人の生き方の問題だから仕方がない	①	②	③	④
B	勉強や仕事でつまずくと、再起するチャンスが得られにくい社会になっている	①	②	③	④
C	もっと競争することによって、成果が報われる社会が望ましい	①	②	③	④

問10 あなたは、今の日本で「教育の分野」で格差が広がっていると思いますか。

- ① 広がっている ③ あまり広がっていない
 ② まあ広がっている ④ 広がっていない

問11 あなたは、義務教育のあり方について、どちらの考えに近いですか。

- ① 義務教育でも、能力別のクラス編成や指導がもっと必要だ
 ② 義務教育では、全体の学力向上を大事にするのが基本だ

問12 あなたは、「子どもに対する金銭的な支え」は、親としてどの程度の年齢まで行うのがよいと思いますか。

- ① 高校卒業まで ④ 結婚するまで
 ② 20歳の成人まで ⑤ 可能な限り長く
 ③ 学業を終えるまで ⑥ その他（ ）

